令和５年度高岡市一般会計・特別会計歳入歳出決算
及び基金運用状況の審査意見

第１　審 査 の 対 象

１　各会計の歳入歳出決算

令和５年度　高岡市一般会計
令和５年度　高岡市国民健康保険事業会計
令和５年度　高岡市荻布奨学金事業会計
令和５年度　高岡市駐車場事業会計
令和５年度　高岡市介護保険事業会計
令和５年度　高岡市後期高齢者医療事業会計

上記各会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書

２　各基金の運用状況

令和５年度　高岡市高額療養費貸付基金
令和５年度　高岡市美術館美術品取得基金

上記各基金の運用状況に関する調書

第２　審 査 の 期 間

令和６年７月 26 日から令和６年８月８日まで

第３　審 査 の 方 法

審査に当たっては、各会計の歳入歳出決算書及び附属書類が、関係法令に準拠して作成され、計数が正確であり、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係職員から決算についての説明を聴取するなどの方法により実施した。

また、基金の運用状況を示す書類の計数についても関係諸帳簿と照合した。

第４　審 査 の 結 果

審査に付された各会計の歳入歳出決算書及び附属書類は、いずれも関係法令の規定に準拠して作成され、その計数は関係諸帳簿と符合し正確であり、予算執行及び会計処理は適正であると認められた。

また、基金の計数は正確であり、設置目的に従い適正に運用されていると認められた。

なお、各会計別の予算執行状況及び財政状態並びに基金の運用状況に関する資料は、決算の概要等のとおりである。

第５　審 査 の 意 見

令和５年度の一般会計と特別会計を合わせた総計決算額は、歳入が 117,158,199 千円、歳出が 114,088,433 千円で、歳入歳出差引額(形式収支)は 3,069,766 千円となり、前年度に比べ歳入で 4,924,721 千円(4.4%)、歳出で 5,681,005 千円 (5.2%) とそれぞれ前年度の決算額を上回っている。

一般会計は、歳入が 79,633,850 千円(前年度比 6.7%)、歳出が 77,239,304 千円(前年度比 8.0%)で、形式収支は 2,394,546 千円となり、これから翌年度へ繰り越すべき財源 867,835 千円を差し引いた実質収支は 1,526,711 千円となっている。

この実質収支から前年度実質収支 2,073,759 千円を差し引いた当年度の単年度収支に財政調整基金積立金 980 千円と繰上償還金 935,984 千円を加えた実質単年度収支は 389,916 千円の黒字となっている。

歳入全体の 34.2%を占める市税は 27,230,269 千円で、前年度に比べ 819,448 千円 (3.1%) 増加している。これは主に、個人市民税が給与所得の増加により 226,310 千円(2.5%)増加したことや、固定資産税が大規模事業所の新築家屋及び法人の積極的な設備投資に伴う償却資産の増加により 546,055 千円(4.0%)増加したことによるものである。

市税収納率は 96.5%で、前年度に比べ 0.3 ポイント上昇し、収入未済額については 105,393 千円(△10.9%)減少している。これは、コンビニ収納やスマホ収納など納税者の利便性に配慮した納税環境の整備が図られてきたことや滞納者に対する財産調査をはじめとする滞納処分を強化する等、収納率向上対策に取り組まれた成果と思われる。自主財源確保のため、引き続き、適切に対応されるよう望むものである。

歳入全体の 8.9%を占める市債の発行額は 7,132,400 千円で、前年度に比べ 2,795,323 千円(64.5%)増加している。このうち、借換債 2,499,900 千円を除いた額は 4,632,500 千円で、前年度に比べ 1,912,323 千円 (70.3%) 増加している。これは主に、臨時財政対策債が減少したものの、教育債、土木債が増加したことによるものである。

また、当年度末の一般会計の市債現在高は 89,179,176 千円となり、前年度末に比べ 4,771,210 千円(△5.1%)減少している。

歳入を財源別構成でみると、市税等の自主財源の割合は 46.4%、国庫支出金等の依存財源の割合は 53.6%となっている。自主財源の比率は、前年度に比べ 0.1 ポイント上昇し、2,424,342 千円(7.0%)増加している。依存財源の比率は、前年度に比べ 0.1 ポイント低下したものの、2,590,734 千円(6.5%)増加している。

次に、歳出を性質別にみると、歳出全体に占める義務的経費の割合は 49.4%、投資的経費の割合は 12.1%、その他の経費の割合は 38.5%となっている。義務的経費の比率は、前年度に比べ 1.3 ポイント低下したものの、1,890,902 千円 (5.2%) 増加している。これは主に、扶助費が増加したことによるものである。なお、扶助費の増加の主な要因は、電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金給付事業費等が増加したことによるものである。投資的経費の比率は、前年度に比べ 3.7 ポイント上昇し、3,351,756 千円(55.6%)増加している。これは主に、補助事業で五位中学

校区統合小学校整備事業費、高岡西部中学校区小中一貫校整備事業費等が増加したことによるものである。その他の経費は、前年度に比べ 2.4 ポイント低下したものの、449,661 千円（1.5%）増加している。これは主に、物件費で新型コロナウイルスワクチン接種事業費が減少したものの、公共施設等整備改修基金をはじめとする各種基金への積立金が増加したことによるものである。

普通会計における財政状況を示す指数・比率については、財政力指数が 0.71 で、前年度に比べ 0.02 ポイント低下し、悪化したものの、経常一般財源等比率が 106.3%（前年度比 1.3 ポイント）と上昇し、経常収支比率が 85.0%（前年度比△0.1 ポイント）、実質公債費比率が 11.6%（前年度比△0.4 ポイント）とそれぞれ低下し、改善している。

今後とも市債については、将来にわたる償還額や残高を意識しながら適正に管理されたい。

次に、特別会計の決算状況をみると、５会計の形式収支は 675,220 千円であり、これから翌年度へ繰り越すべき財源 4,928 千円を差し引いた実質収支は 670,292 千円となっている。各特別会計の実質収支は、国民健康保険事業会計、駐車場事業会計、介護保険事業会計及び後期高齢者医療事業会計の４会計で黒字となっており、それぞれ全額翌年度へ繰り越されている。また、荻布奨学金事業会計は収支同額である。

令和５年度は、コロナ禍の影響、物価・エネルギー価格の上昇といった市民生活や経済・社会活動への不安の解消に努めるとともに、「持続可能な未来都市　高岡」の実現に向け、まちの未来を見据えた投資を行いながら、市民、企業、地域それぞれが直面する課題に立ち向かっていく「挑戦」の動きを拡げ、まち全体が持つ課題の解決につながる施策に取り組まれた。一方で、投資的経費の抑制、公債費の平準化、公共施設管理コストの縮減、事務事業の見直しなどの取組を着実に進め、市債残高も 900 億円を下回るなど、効率的な行財政運営を実施されたことが評価できる。

しかしながら、少子高齢社会の進行に伴う扶助費の増加が見込まれることに加え、学校施設等の整備がピークを迎えるなど、今後も厳しい財政状況が続くものと思われる。

このことから、今後の市政運営にあたっては、「高岡市行財政改革推進プラン」に基づき、引き続き、市債の適正管理、事業の選択と集中、ふるさと納税やクラウドファンディングなどによる新たな歳入確保・稼ぐ力の充実等に取り組み、弾力的で持続可能な財政構造の確立に努められたい。また、令和６年能登半島地震災害からの復旧・復興を推進しながら、長期的な視点に立ち、次世代を見据え、市民の安全・安心を守る市政運営に当たるとともに、新しい変革の時代への挑戦を進められたい。